

5月19日、産経新聞朝刊で「車両や線路内 妨害行為急増」なる報道があった。同記事には、『JR東日本管内で4月ごろから列車の乗務員室扉の内側が損傷したり、設備が持ち去られたりする妨害とみられる行為が多発していることが同社への取材で分かった。4、5月で計200件以上に及んでおり、一部の行為については警察へ被害届を提出』とある。乗務員室扉の内側が何かで叩かれたように凹んでいる痕が多数発見された事象や、トイレトーパー不審火、線路内に自転車などが置かれる事件のほか、4月12日に郡山駅（福島県）では、停車中の車両が転動し500メートル先に留置されていた車両に衝突した不審事象も紹介されている。

車両の器物破損・搭載品窃盗・不審火など JR東日本管内で鉄道妨害事象が多発!!

JR東日本会社は、4月23日、深澤社長名による「職場規律の厳正について」なるメッセージを社員にむけて発信し「職場内外において職場規律の厳正の観点から見過ごすことが出来ない問題事象が発生しています」と注意喚起した。続いて4月末には、乗務員職場の掲示板に注意喚起と警戒を呼び掛ける書面が掲出され、「車両不具合を発見したときは、速やかに関係箇所に連絡するとともに『異常時情報共有システム』を活用し送信もお願いします」と記載されている。車両不具合の実例としては「落書き、運転室ドアのへこみ、発車ベルの破損、窓ガラス破損、客室の座席破損、貫通ドアゴム破損、手歯止め使用中札紛失等」が挙げられている。いずれも自然に発生したものではなく明らかに人為的と捉えられる事象ばかりである。しかも、驚きなのは、車両の乗務員室扉内側の損傷など、部内の者しか起こし得ないような事象も多数発生していることだ。現に、社長名の掲示物も内部犯行の疑念を明示している。一部の行為については警察へ被害届が提出されているが、こうした犯罪が人知れず頻繁に行われていること自体、気味悪く信じ難い。なお、関連性の有無は不明だが、5月12日にはJR宇都宮線赤羽一浦和駅間の線路内に立ち入れないエリアでの自転車の投げ込み事件も発生している。

過去にも犯行者不明の不審事象や列車妨害事件が頻発

1990年のJR総連のスト権確立・委譲提起問題を端緒としてJR労働界の混乱と分裂が起きたが、同時期にも多くの不可解な事象が発生した。1993年6月10日には、岐阜県関ヶ原町の東海道新幹線上り線のレールにワイヤーロープが巻かれるという事件が発生、その2ヵ月後にも滋賀県彦根市の東海道新幹線下り線のレールにチェーンが巻かれるという列車妨害事件が発生した。また、同年8月から5ヶ月間にわたり新幹線車内で約150本の置き針が発見された。

西岡研介氏は著書「マングローブ テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実」の中で、「松崎の支配するJR東日本の異常な労使関係をメディアが追及するたびに、列車妨害が起き、組織分裂が起こる」と記述している。週刊誌で同氏記事の連載が始まった2006年にも、置き石事件や列車ドアが接着剤で固められるなどの悪質な事件が首都圏内で頻発していた。

鉄道の安全・安定輸送を妨げる行為は犯罪であり、許してはならない!

産経新聞が取り上げた昨今の夥しい数の不審事象や妨害行為は、JR東労組が今春闘で取り組んだスト戦術を端緒とした組合員の大量脱退等の組織混乱や、労使関係が緊迫化している中で発生しているわけだが、関連性の有無は不明だ。何者かが、何らかのメッセージを発していると捉えるべきなのだろうか。いずれにせよ継続的な警戒が求められ、警察の捜査等によって、一刻も早くご利用者や善良な社員が安心できる状態になることを祈念するばかりだ。